

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501050		
法人名	有限会社 ライフアート		
事業所名	グループホーム 福寿荘		
所在地	札幌市白石区北郷5条9丁目8-33		
自己評価作成日	令和4年10月	評価結果市町村受理日	令和4年12月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_U22_kan=true&JigyosyoCd=0170501050-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和 4年 11月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これまでの生き方や価値観を大切にしながら、認知症の疾患別に合わせたケアに取り組んでいます。入居者本人の思いを中心に、ご家族やかかりつけ医と適切に連携を図りながら、日々の生活を支援しています。社内研修で病気やケアのあり方について学び、それを実践できるように努めています。また、入居者同士がお互いに支え合える関係を大切にしたいと考え、良好な関係構築できるようにベアリングや調整をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、最寄りのバス停から至近距離にある住宅街に位置しています。広い敷地には、隣接の事業所と共有している彩り豊かな花々や数種類の野菜を植えている畑があり、近所の方々は道路沿いに咲いている桜を觀賞し、職員と挨拶を交わしています。法人会長は開設以来、食の重要性を説いており、事業所はその思いを共有して一汁三菜を基本に午前のおやつは果物を、午後には手作りの蒸しパン等を用意するなど、変化ある食事作りに努めています。運営推進会議は書面ですが、運営状況等を事前に報告し、その後に電話を掛けて推進委員から感想や情報、職員に対して励ましの言葉を得ており双方向の会議内容となっています。2年振りの家族会では、運営状況やコロナ禍による現状を報告し、事業所の理解に繋げています。職員は、利用者がその人らしく居られるために何ができるのかを模索しながら、普通の生活への支援が続けられています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念カードを携帯しており、いつでも見返せるようにしている。日々のケアや申し送りなどで理念に沿ったケアを行っているか確認できるようにしている。	法人理念とケア理念は系列事業所の共有とし、目指す方向性は利用者を主体とした支援としています。職員は自身のケアを立ち返る指標として、掲示や携帯している理念を折にふれ目にして確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会している。できる限り清掃活動などの町内活動に参加している。近隣の方々には挨拶するように心掛け、顔なじみの関係を築けるように努めている。	コロナ禍により地域との交流はお互いに自粛していますが、回覧板や運営推進委員の町内関係者から情報を得たり、公園の清掃にも参加しています。職員は道路に面している桜を觀賞している近所の方々と挨拶を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議で地域の方々に介護のことで困ったことがあれば相談しに来ていただくことも可能な旨を話している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響により電話で話しを伺い、地域の情報を共有している。その中でホームの取組みや防災訓練などについて報告している。	運営推進会議は、感染症予防や避難訓練等の取組み状況を推進委員に書面で伝えていきます。後日、電話を掛け感想や各立場での情報、職員に向けた励ましの言葉を得て、議事録に収めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告書の提出やアンケートへの回答など適宜、連携を取れるように取り組んでいる。また、札幌市の認知症介護実務者研修、リーダー研修の実習施設となっている。	行政との関わりは管理者が担い、メールや郵送で行っていますが、内容によっては窓口担当者や直接話をしています。各担当者や地域包括支援センター職員とは、その都度意見や情報交換ができ、運営や業務の向上に生かしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はしていない。必要な方にはセンサーを設置し、迅速な対応ができるように努めている。また、日々の中で身体拘束にならないように話をしながらケアに取り組んでいる。	法人主催の適正化委員会は定期的に行われ、管理者は話し合ったことを職員に伝えていきます。毎月の内部研修は、適切な支援のあり方を盛り込んでおり、職員は報告書を提出することで自身のケアを確認しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアや申し送りで不適切なケアや虐待について考える機会を設けている。社内研修でも不適切ケアについてグループワークを行い、日々のケアを振り返り、共通理解を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を回覧し、制度についての理解を深め、日々の中でも人権について意識するように心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談及び契約の際に行っている。また、利用者に変化のあった際にも本人や家族の不安や疑問点に関して、その都度説明していくように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時には短時間でも話をする時間を設け、意見や要望をしやすい関係づくりに努めている。家族会を実施し、運営方針などの報告や家族からの意見に耳を傾けている。	家族には毎月事業所便りを発行して事業所の様子を伝え、さらに面会時や電話、LINEで利用者の詳細を知らせて要望等を聴いています。感染症対策を講じての家族会には大勢の参加があり、運営状況や利用者の日常を報告し、意見交換が行われています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員が意見や提案をしやすい関係づくりや雰囲気づくりを心掛けている。管理者会議などで報告し、運営に反映させている。	代表者は常に事業所を訪れ、全体像を把握しています。管理者は申し送り時や会議、その時々での個別面談等で職員から意見を聴き、状況によっては代表者に報告して指示を仰いでいます。職員は一日の中で業務を分担し、力量を発揮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を利用している。また、スタッフの状況に応じて資格取得に関する支援を行っている。スタッフの様子を把握し、職場環境の整備に努められるように管理者会議や日常的に話し合いを重ねている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルスの感染状況によって社内研修を実施している。社内研修では不適切ケアや認知症について学び、日々の中で活かせるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナウイルスの影響により、他施設からの見学や実習の受け入れはできていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を受けた段階で、本人や家族に合わせて臨機応変に時間を設定し思いを聴く機会を持つように努めている。デイサービス利用を経ての入居など、入居前の関係づくりにも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族支援を念頭に置き、相談には十分な時間をかけて対応し、不安解消や信頼関係の構築に努めている。入居後も本人の様子を連絡したり、情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の相談を傾聴し、現状最適な支援策を見つけ、状況に応じた対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケア理念に基づいてケアを実践していく事で、共に過ごし、支えあう関係に繋がっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を家族と共に支えていく意識を共有し、関係づくりに努めている。また、必要に応じて家族との面談を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響により外出や集まりが制限される中で、手紙や動画窓越しでの面会を行い、繋がりが継続するように取り組んでいる。また、個人で携帯電話を持っている方もいる。	感染症拡大防止のため以前のような外出や面会は困難ですが、利用者は家族と窓越しやリモートでの面会、電話や手紙で繋がりが保たれています。職員は利用者やゆっくり関わり昔話などを傾聴しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者同士の間に入り、思いを伝えたり、距離を置いたり関係調整を行っている。利用者の疾患や個性を把握し、入居者同士が支えあえる関係を保てるよう取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られても希望時や必要時には、訪問できる環境を整えてから利用終了するように努めている。また、死亡により退去された場合は、家族に対するフォローを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用している。表情や会話などから本人の思いや希望の把握に努め、スタッフ間で話し合いながら、ケアプランに反映するようにしている。また、家族から話を伺い、情報共有している。	職員は理念に沿い、利用者を主体とした支援を行う中で、会話はもとより、ふとした仕草や目の動きなどの表情から意向の読み取りに努めています。家族からの情報も参考に、状況によってはケアプランの支援目標としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用している。本人や家族から生活歴を聴き、馴染の暮らし方や生活環境などを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の中での気づきや変化を申し送りやノートを活用し共有するように努めている。必要に応じてアセスメントシートを活用し、より具体的な状況把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアの在り方についてスタッフで話し合い、現状に即した本人主体のケアプランを作成している。作成後は家族に説明し、同意を得ている。モニタリングは日常的に行っている。	毎日モニタリングを行い、利用者の状態把握に努めています。更新時や変化時は、日頃から得ていた利用者や家族の意向、職員の気付きや意見等を踏まえ、新たなケアプランを策定しています。支援目標の実践は介護記録に載せています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画欄にケアプランの実施や気づきなどを記入し、次のケアプランに反映させている。申し送りなどで密に情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医やデイサービス、グループホーム間で連携を取りながら、状況にあった対応ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響により、そのような取り組みはできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が定期的に通院を行っている。必要に応じ、医師や看護師を通して他医療機関に相談できる体制を整えている。また、本人や家族の希望によりかかりつけの病院へ受診できるようにしている。	受診先は、利用者や家族の希望を受け入れています。月2回協力医の往診と、必要時は歯科や皮膚科の訪問診療を利用でき、家族対応の外来受診を含め、利用者の健康状態を共有しています。看護師資格を持つ会長始め看護職員とは常に相談や指示を仰ぐことができ、利用者や家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	相談や情報共有し、健康管理や適切な受診に繋がれるように介護職員と看護職員が日常的に連携をとっている。看護職員不在時にも必要に応じて電話にて報告、相談し指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院と協力し、早期退院の支援をしている。退院後の生活支援ができるように、病院と連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期について本人や家族の意向を書面で確認している。状態に変化のあった際には主治医、看護師、家族、スタッフで話し合いの場を設け、方針や思いを共有している。	利用者の終末期に対する意向は入居時に確認するほか、日々の会話や家族からも情報収集し、確認しています。状態悪化時は、医師から家族に今後の見通しの説明があり、意思確認後に寄り添いの支援が最期まで続けられています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故のマニュアルを作成し、その都度確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難マニュアルや防災グッズを準備しており、災害時に対応できるようにしている。年2回の避難訓練を行い、ユニット内でも災害時の対応について確認しあっている。	年2回夜間想定避難訓練を計画し、今年度は利用者参加で1回目が終了しています。停電時に備えソーラーパネルの設置、備蓄品の用意、自然災害時の対処など、職員間で検討を重ね、安全に避難できる取り組みに努めています。	1級河川が事業所近くを流れており、それに向けての対策を講じています。近年全国で想定外の災害が頻繁に発生していることから、事業所ではさらなる防災力の強化を検討していますのでその実行を期待いたします。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、人として尊厳が大切にされるような言葉かけや対応を心掛けている。スタッフ同士で適切な言葉かけや対応ができているか確認し合い、誇りが損なわれないような支援に努めている。	職員は接遇研修や業務の中で、代表者や管理者から馴れと親しみの違いなど適切な助言を受け、正しい理解に努めています。事業所全体で利用者がその人らしく暮らせるよう、尊厳ある支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定をできるような関わり、働きかけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人に話を聴いたり、表情や動きなどから思いをくみ取りながら本人のペースに合わせた生活になるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力のもと、本人らしい服装やおしゃれができるように取り組んでいる。訪問美容ではカットだけではなく、カラーやパーマなど本人の希望に沿っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせて盛り付ける量や食べやすいものを用意し、満足感を感じられるようにしている。旬の野菜や果物を使用し、季節を感じられるように工夫している。	献立は、その日にある食材や菜園の新鮮野菜を活用して、一汁三菜を基本としています。午前のおやつには果物を、午後は手作りの蒸しパン等を用意し食の楽しみに繋げています。利用者の状態に合わせて、完食できるよう味付けや量等に配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせて食べる量や水分量を調整している。必要に応じて、水分を促したり、補食をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。一人ひとりの口腔内の様子に合わせて、マウスウォッシュや口腔ケアスポンジを使用している。必要に応じて、歯科往診に繋いでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンやサインをアセスメントし、できるだけトイレでできるように努めている。	最期までトイレでの排泄や布下着を基本として、自尊心に配慮した支援が開設以来行われていました。自力でトイレに向かう利用者の見守り、声かけ誘導、夜間のみ紙仕様の下着や、ベッド上での支援に努め、不快感の軽減に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後のおやつにサンファイバーを使用している。また、腹部マッサージを行い、腹圧をかけるように働きかけている。必要に応じて下剤を使用し、排便リズムを整えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	その時々体調や気分を見ながら声掛けを行い、入浴を楽しめたり、くつろげたりする時間になるように心がけている。また、心身の負担にならないように気を付けている。	毎日入浴できますが、週2回以上を基本として、午前中に支援しています。心身の状態で拒否があるときやシャワー浴の要望等を受けとめています。入浴時は意向や本音が把握でき、ケアプランに反映することもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動と夜間の睡眠のバランスを見て、その時々合った支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報や処方の変更など、申し送りやノートを使用し、職員の周知に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活を基に、今できること、楽しめること、大事にしたいことを中心に生活していただけるようにアセスメントを行い、支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響により、外出する事ができていない。春には、敷地内の桜を見てもらい、季節を感じてもらえるように支援している。	自由な外出はまだ困難ですが、敷地内には桜や彩り豊かな花々、数種類の野菜が植えられており、利用者は窓や庭先で季節の移ろいを感じています。家族支援の外来受診も、外気に触れる機会となっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状態に合わせて、行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連絡を取れるように環境を整えている。手紙やテレビ電話をしている方もいる。また、個別で携帯電話を持っている方もおり、家族との繋がりを感じられるように努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は家庭的な落ち着いた雰囲気となるように心掛けている。温度や音、光などを調整し、不快や混乱を招かないように配慮している。季節に合わせた壁飾りやお花を飾り、季節を感じられるように工夫している。	共用空間は生活環境に配慮し、心地良く過ごせる場所になっており、殆どの利用者は居間でテレビを観たり、会話をして寛いでいます。桜の枝を花瓶に挿したり季節飾り等を施し、季節感を出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが思い思いに過ごせるように、家具の配置を状況に応じて、調整している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が馴染みの物に囲まれて過ごせるように、家族と協力している。使い慣れた家具や写真などを飾り、本人が安心してくつろげるお部屋になるように心がけている。	7畳ある居室には、動線に配慮してベッドや衣装タンス等が置かれ、また、ラジオや写真など馴染みの物も持ち込まれています。居間同様に居室も寛げる環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立した生活ができるように家具の配置や目印などを工夫している。変化のあったときには、速やかに対応し、混乱や失敗を招かないように対応している。		